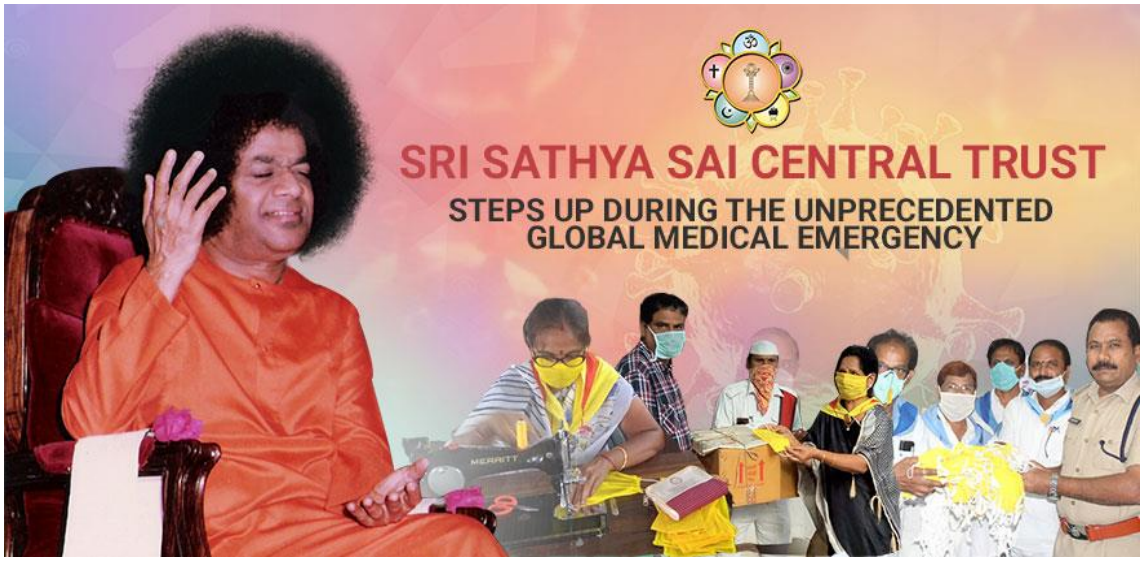
シュリ・サティヤ・サイ・セントラル・トラスト

空前の世界的医療危機の中で始動



「私はあなたがどんな種類の奉仕をしても嬉しく思います。あなたのお金を困っている人のために使いなさい。水の供給を支援しなさい。人々が必要とする教育を与え、医療を援助しなさい。すべてを個人のためではなく、社会の利益のために行いなさい。国家の福祉を心に留めなさい」

—— 1995 年 11 月 23 日 バガヴァン・シュリ・サティヤ・サイババ

2002 年に起こったグジャラート州の地震の時も、2004 年の津波の大洪水の時も、2008 年のオディシャ州〔オリッサ州〕のサイクロンの時も、バガヴァンはいつも、困窮している人々、見捨てられた人々に手を差し伸べられ、サイのワーカーたちは、誰も訪れたことのない村や居住地に行って、人々に新しい生活を与えました。

こんにちでも、シュリ・サティヤ・サイ・セントラル・トラストは、同様の燃えたぎる熱意をもって、病気の人や貧しい人々を救うために、このミッション〔使命〕を続けています。

今、世界はコロナウイルスに起因する精神的ショックと外傷に直面しているため、シュリ・サティヤ・サイ・セントラル・トラストは、再び国家〔国民〕を助けるために行動を起こしています。

2020 年 3 月 31 日、トラストの運営理事であるＲＪラトナーカル氏は次のように発

表しました。「シュリ・サティヤ・サイ・セントラル・トラストは、アーンドラ・プラデーシュ州のアナンタプル県にある 14 の隔離施設に、必要とされるすべての医療用品を寄付いたします。それぞれの隔離施設には、今、100 床のベッドがあります。トラストはこの崇高な理由のために 1,800 万ルピー〔約 2,600 万円〕を費やす予定です」

この困難な時期におけるすべての援助をアナンタプル県の行政長官、ガンダム・チャンドゥルドゥ氏に請け負って、ラトナーカル氏はこう言い添えました。「シュリ・サティヤ・サイ・セントラル・トラストは、まずこの県の被害を軽減することに尽力します」

スーパースペシャリティ・ホスピタルの真向かいにある患者付添人用の建物が、隔離施設として使われることを政府に申し出ているラトナーカル氏。この建物には 50 の個室があり、コロナウイルス感染患者のために必要な清潔なシーツ類、ベッドカバー、その他すべての設備が整っている。

さらに、シュリ・サティヤ・サイ・セントラル・トラストは、シュリ・サティヤ・サイ・セヴァ・オーガニゼーションと手に手を取り合い、インド全州において、困窮者に救助の手を差し伸べるために取り組んでいます。

例えば、ケーララ州では、政府が 25,000 枚のマスクを必要としていることをサイ・オーガニゼーションが知るようになった時、サイのボランティアたちは、布地の適正な品質について政府の許可を得た後、即座に行動に移りました。また彼らはオートリキシャの運転手や露天商や労働者たちのために「手を洗う場所」を設置しました。

USHA

同様に、アーンドラ・プラデーシュ州は、家庭にいて働くサイの女性ボランティアたちが作る 10 万枚のマスクの提供を申し出ました。テランガーナ州やタミルナードゥ州等で、10 万枚かそれ以上のマスクが、サイのボランティア達によって作成されています。

実際、2020 年の 3 月 30 日、インドの首相であるナレーンドラ・モディ氏は、RJ ラトナーカル氏およびニミシュ・パーンディヤ氏（シュリ・サティヤ・サイ・セヴァ・オーガニゼーションの全インド会長）とテレビ会議の中で話し合い、モディ首相は、シュリ・サティヤ・サイ・オーガニゼーションが取り組んでいくあらゆるイニシアティブ〔率先・構想・戦略〕と、さらなる数多くの医療奉仕、社会奉仕の活動計画を告げられました。

2020 年 4 月 1 日の朝、プッタパルティで、ある感動的な話が明らかになりました。
アナンタプルから来た一人の中年の警官が、プッタパルティにある政府の隔離施設に配属されました。そこは、スーパー・スペシャリティ・ホスピタル〔サイ高度専門病院〕の真向かいにあります。

朝食のあと、仕事の報告をしに行った時、その警官は震えを感じ、胸に動悸を覚えました。同僚は、すぐさま彼を数メートル先のスワミの病院へ連れて行きました。

国中がロックダウンしている最中であるにもかかわらず、病院の救急診療科は常に警戒態勢を取っています。警官はすぐに心臓専門医の診察を受け、心臓の不調が疑われました。

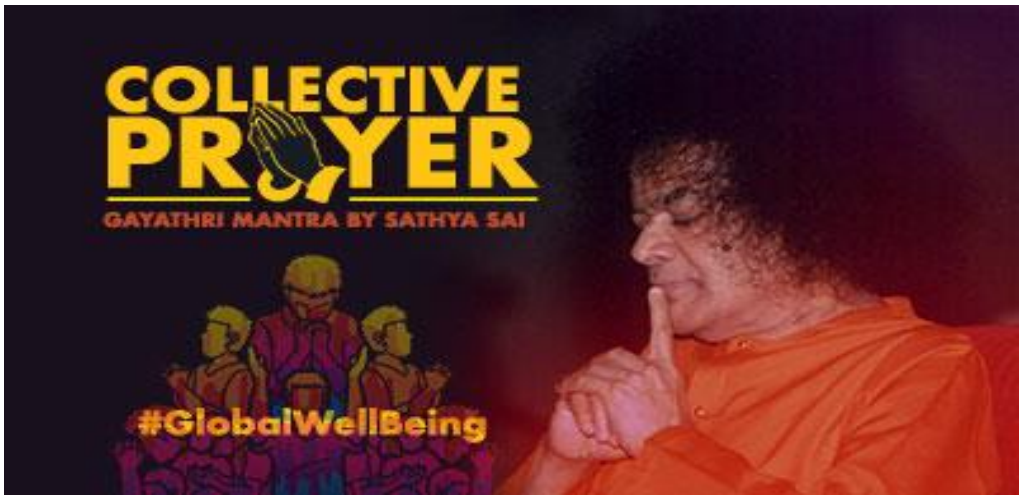
心臓外科医長であるアイヤール医師は、その警官をただちに手術することに決めました。「血管の1つが損傷しており、ステントを入れました。命が危ぶまれるような大きな心臓発作は、神の恩寵によって回避できました。すべては 30 分の間に起こったのです」。アイヤール医師はそう言って、断言しました。

「私にとって、これは完全なる神の恩寵です。警官は、不快な症状が始まった時、病院の目の前にいて、記録的な速さで診察を受け、2 時間も経たない内に手術がなされたのです。特に、人も車も絶対的に動きを止められているこの時期であることを考えると、これは神の恩寵以外のなにものでもありません。私たちは、朝から晩まで他の人々を助けるため、命の危険が迫っている人々に奉仕する機会を与えて下さるバガヴァンに感謝しています」

「あなたが無私の心で社会のために働くなら、神はあなたの安全と無事を守ることを保証します」と、バガヴァンは何度もくり返し約束しくださいました。どこであれ神への捧げものとして良い仕事がなされるところで、私たちはそれが実行されるのを見ています。

マスクが作成され、スラム街や人里離れた地域の貧しく、おざなりにされた人々が食べ物や薬や衣類を与えられているのと同時に、プラシャーンティ・ニラヤムのアシュラムは毎日の祈りをやめずに継続し、どこであれ病に冒された人たちのために世界中のサイの帰依者が祈りに心を注ぐよう鼓舞しています。

だからこそ、何十万人もの帰依者たちが、今、それぞれの家庭から、定刻にガーヤトリーマントラを唱えたり、バジャンを歌ったり、神聖な書物を読んだりしているのです。そうすることで、私たちはこの惑星の肯定的なエネルギーを、周りにある否定的なものを抑制し、消し去るところまで高めようとしているのです。希望と、健康と、幸福の新しい夜明けを迎えるために。



シュリ・サティヤ・サイは生き続けています・・・シュリ・サティヤ・サイ・セントラル・トラストの使命は前進を続けます！

ラジオ・サイ・チーム

出 典 ： https://media.radiosai.org/journals/vol_18/01APR20/Sri-Sathya-Sai-Central-Trust-Steps-Up-During-the-Unprecedented-Global-Medical-Emergency.htm